

*東京国立近代美術館フィルムセンターは、2018年4月1日より国立映画アーカイブとなりました。

展覧会「生誕 100 年 映画美術監督 木村威夫」関連上映企画

国立映画アーカイブ開館記念

生誕 100 年 映画美術監督 木村威夫

Inaugurating NFAJ: Art Director Takeo Kimura at His Centenary [screening]

会期:2018年11月6日(火)ー11月25日(日)

会場:国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU (2階)

平素よりお世話になっております。

国立映画アーカイブでは、今年生誕 100 年を迎えた映画美術監督・木村威夫の軌跡をたどる展覧会「国立映画アーカイブ開館記念 生誕 100 年 映画美術監督 木村威夫」の開催にあわせ、11/6 (火) ~11/25 (日) まで、長瀬記念ホール OZUにて特集上映を開催します。



(左上から下へ)『本覺坊遺文 千利休』、『陽のあたる坂道』、『肉体の門』、『海の呼ぶ聲』©KADOKAWA1944、『春琴物語』、『春泥尼』、『黒い潮』、『蜘蛛の街』©KADOKAWA1950

本特集では、劇場公開された長篇作品だけでも 240 本以上に及ぶフィルモグラフィの中から、木村自身が「私の処女作は不運であった」と回想した美術監督デビュー作『海の呼ぶ聲』(1945) など、長い間観ることのできなかった作品から、恩師・伊藤熹朔きさくの下で明治時代の美術表現に正面から取り組んだ『雁』『春琴物語』、それに鈴木清順(『悪太郎』『肉体の門』『ツイゴインルワイゼン』)と熊井啓(『忍ぶ川』『サンダカン八番娼館 望郷』『本覺坊遺文 千利休』)という個性の全く異なる監督と組んだ代表作の数々、そしてギネス記録となった最晩年の長篇監督デビュー作『夢のまにまに』(2006)まで、木村威夫の多彩な映画美術の魅力を 20 作品でご紹介します。

特に『海の呼ぶ聲』と美術監督第二作『絢爛たる復讐』(1946)、そして大映時代中期の『蜘蛛の街』(1950)の 3 作品は、現存する 16mm マスターポジから、今回のために上映用 35mm プリントを作製しました。

また、会期中には木村威夫と仕事を共にした美術デザイナーの方々による座談会も予定しております。

展示・上映の両面から、60 年以上に及んだ木村の独創的な仕事の数々を振り返る絶好の機会となります。ぜひこの機会に多くの方に周知へのご協力を賜れますと幸いです。

▼展示室 (7階) で開催中! ▼



展覧会「国立映画アーカイブ開館記念 生誕 100 年 映画美術監督 木村威夫」

会期:2018年10月16日(火)ー2019年1月27日(日)

会場:国立映画アーカイブ展示室(7階)

開室時間:11:00-18:30(入室は18:00まで)

ホームページ→<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/takeokimura/>

◆上映作品リスト (20 作品)

1. 海の呼ぶ聲 (1945) 大映 | (美) 木村威夫 | (監) 伊賀山正徳
*11月17日(土)の上映後には座談会を開催します。上映をご覧になった方は、そのまま座談会にご参加いただけます。
2. 絢爛たる復讐 (1946) 大映東京 | (美) 木村威夫 | (監) 小石栄一、吉村廉
3. 蜘蛛の街 (1950) 大映東京 | (美) 木村威夫 | (監) 鈴木英夫
4. 雁 (1953) 大映東京 | (美) 伊藤熹朔、木村威夫 | (監) 豊田四郎
5. 春琴物語 (1954) 大映東京 | (美) 伊藤熹朔、木村威夫 | (監) 伊藤大輔
6. 黒い潮 (1954) 日活 | (美) 木村威夫 | (監・出) 山村聰
7. 雑居家族 (1956) 日活 | (美) 木村威夫 | (監) 久松静児
8. 春泥尼 (1958) 日活 | (美) 木村威夫 | (監) 阿部豊
9. 陽のあたる坂道 (1958) 日活 | (美) 木村威夫 | (監・脚) 田坂具隆
10. アリバイ (1963) 日活 | (美) 木村威夫 | (監) 牛原陽一
11. 悪太郎 (1963) 日活 | (美) 木村威夫 | (監) 鈴木清順
12. 肉体の門 (1964) 日活 | (美) 木村威夫 | (監) 鈴木清順
13. 紅の流れ星 (1967) 日活 | (美) 木村威夫 | (監・脚) 舛田利雄
14. 忍ぶ川 (1972) 俳優座=東宝 | (美) 木村威夫 | (監・脚) 熊井啓
15. サンドカン八番娼館 望郷 (1974) 俳優座=東宝 | (美) 木村威夫 | (監・脚) 熊井啓
16. ツイゴイネルワイゼン (1980) シネマ・プラセット | (美) 木村威夫、多田佳人 | (監) 鈴木清順
17. 夢みるように眠りたい (1986) 映像探偵社 | (美) 木村威夫 | (監・脚) 林海象
18. 本覺坊遺文 千利休 (1989) 西友 | (美) 木村威夫 | (監) 熊井啓
19. 紙屋悦子の青春 (2006) バンダイビジュアル=アドギア=テレビ朝日=ワコー=パル企画 | (美) 木村威夫、安宅紀史 (監・脚) 黒木和雄
20. 夢のまにまに (2008) パル企画=ポニーキャニオン=トルネード・フィルム | (監・原・脚・美) 木村威夫



『絢爛たる復讐』



『夢のまにまに』

©2008「夢のまにまに」パートナーズ

座談会

「木村威夫をめぐる」(仮題)

日時:2018年11月17日(土)12:15pm-1:15pm(終了時刻は予定)

ゲスト(予定):深民浩、中林啓治、林隆、竹内公一

木村威夫と仕事をした美術デザイナーの方々に、木村威夫の人と仕事についてお話を伺います。

※入場無料。当日1回目の上映をご覧になった方は、そのまま座談会にご参加いただけます。座席に余裕がある場合は、座談会からご参加いただけます。

開催概要

特集上映「国立映画アーカイブ開館記念 生誕100年 映画美術監督 木村威夫」

Inaugurating NFAJ: Art Director Takeo Kimura at His Centenary [screening]

会期:2018年11月6日(火) - 11月25日(日)

会場:国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU (2階)

料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料

前売券:チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各100席分)を販売中。[Pコード:559-053]

購入方法や発券手数料等の詳細→<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/kimura201810/#section1-6>

掲載用のお問い合わせ先:03-5777-8600(ハローダイヤル)

本企画ウェブサイト:<http://www.nfaj.go.jp/exhibition/kimura201810/>